

入学にあたって

入学してから

歯学部1年 高橋 佳男



入学して瞬く間に時間が過ぎていくと感じます。毎日の生活がとても充実しています。今は、歯学部の卓球部と新潟大学国際ボランティアサークルに所属しています。

自分は将来の進路を考えたとき医療に携わりたいとは思っていましたが、絶対に歯医者になりたいわけではありませんでした。幼いときから虫歯の治療は苦痛でした。実は今は顎がはずれたりして、歯医者のお世話になりたくない自分です。

しかし、新潟大学歯学部に来てよかったと思います。高い motivation を持っているたくさんの人の中に自分がいられて、さらに early exposure を受けたことは、自分は歯医者になりたいのだという気持ちが強く喚起させられました。附属病院を見学させていただき、人体解剖を見たことは医療人として働くことのすばらしさを確認できました。そして、歯医者の仕事の重要さ・志の高さが実感できて一生懸命に働いているところを早いうちにみられたことは非常に有意義でした。

さて、多様な考えや視点・知識を身につけられる一年間の教養は、将来歯医者を目指すには不可欠だと思います。しかし、自分は教養の授業が楽しいとは言えないし、上に進級するための単位取りに翻弄されていることは否定できません。その中で、先日授業がないときに学校町 campus へ友人を誘って先輩達にまぎれて、つまりもぐりなのですが癌遺伝子についての講義を受けてきました。専門用語はわかりませんでしたが、やっていることはおもしろいと思いました。そして、この一年間は五十嵐 campus だからできる他学部

の人と知り合って、いろいろなことを経験・吸収して自分の capacity を広げていきたいと思っています。そのためにも、積極的に行動できる自分でありたいです。わからないことが多くありますが、よろしくお願いします。

最近思うこと

歯学部1年 永井 弘真



新潟大学に入学するまで「歯科医師」という職業に特別な意識はありませんでした。というのも私はつい最近まで虫歯になった記憶もなく歯医者にかかったことも数える程しかなかった

からです。そのため歯の健康な自分が本当に患者さんの気持ちが分かるのかという疑問さえありました。ところが入学前にたまたま歯科検診を受けたところC3まで進行していて神経を抜いて金属を詰めなければならない歯があると言われたのです。それは非常にショックでした。

また、今まで歯学は同じ顔の一部なのに眼科や耳鼻科といった医学となぜ一線が引かれるのか、そんなことまで考えていた私が実際に治療を受けたり病院見学をして実際の治療を見ているうちに歯科医師という職業は「職人」あるいは「技術屋」といったイメージを持つようになってきました。そして自分の歯を守るためにも歯学を学ぶという気持ちが湧いてきたのです。

ところでわたしは県外出身者なので新潟のことをよく知りません。このまま新潟の文化や風土に触れないまま6年間過ごすのはもったいない。私は元来見知らぬ土地を歩くのが好きなのでこれから新潟のあちこちを歩き回ってみようと思います。

最後に私は理解するのが遅く、手が不器用なの

ではたして専門課程の講義についていけるかどうか心配です。しかし自分なりに精一杯努力してりっぱな「職人」になろうと思います。

大学院入学にあたり

予防歯科学講座 藤山友紀



新潟大学に大学生として入学したばかりの頃は、「2000年」という年は、遙か先のこととっていました。しかし、気が付けば2000年。節目の年となっていました。6年間の教育課程を無事終え、今年の3月には、国家試験、そして卒業を迎えることができました。6年前、自分が大学院に入学するとは、夢にも思いませんでしたが、縁あって4月から、本学予防歯科学講座に大学院生として、お世話になっております。

入局して、5ヶ月程がたち、新しい環境にもようやく慣れました。「大学院生」は、学生ではありますが、「大学生」と全然違います。大学生の時は、「歯科医師」になる為に、色々先生方に教えて頂き、勉強していました。受身の姿勢でも、それ程支障がありませんでした。大学院生は、研究し、学位論文を4年で書き上げなければなりません。もちろん、色々な先生方から御教授して頂かなければなりません、その他に自分自身で勉強し、考えることも不可欠だと、この数ヶ月で感じました。受身の姿勢ではなく、能動的に物事を考え、行動していけるよう頑張っていきたいと思えます。また、歯科医療とは、人と人との触れ合いが、ベースにあると思いますので、これからの研究が「人」の役に立つよう、そして、私自身が「人」として大きく成長できるよう、努めていきたいです。

最後に、大学院進学を許してくれた両親に深く感謝しています。

大学院入学にあたって

歯科保存学第二講座 金子 進

4月から第2保存科で大学院生としてお世話になっています。大学院に入学してから約4ヶ月経ったわけですが、研究に関しても医局の仕事に関してもまだまだ分からないことだらけで、周りの先生方に迷惑をかけてばかりいるような気がしません。

思えば、去年の夏に大学院進学を決めて以来、ずっと心の中では小さな希望と大きな不安が交錯して来ました。自分が興味を持った歯周病の研究をしたい、という希望と裏腹に、様々な不安が頭の中をよぎったものです。当然、大学院に進学するという事は更にもう4年間学生を続けるということで、経済的な負担はどの程度なのか？また臨床面での知識や技術を身につけるのが遅れるのではないのか？それに、落ちこぼれ学生だった僕に、果たして研究なんてできるだろうか？英語の文献を読んだり、英語で論文を書いたりなんてできるだろうか？毎朝きちんと起きられるだろうか？等々の不安がありました。今となってはいつでもいいような心配だったものもあれば、今まさに直面して苦しんでいるものもあります。そして、それを乗り越えるためには、ただ頑張ることくらいしか思いつきません。頑張ること、努力することというのを僕はこれまで避けてきたような気がしますが、いよいよそうではいられない状況に追い込まれてしまいました。

歯科の道に進む人にとって、大学を卒業してからの数年間、その後数十年の人生を左右する重要な時期だということをよく耳にします。僕にとって、大学院での4年間がその後の人生にプラスになるように、自分のできることを、すべきことを精一杯頑張っていきたいと思えます。

入学にあたって

技工士学校1年 井田尚男



指名を受けて私は作文の責任を負うことになったが、読者のみなさんのことをおもうと、いささかこわくて、たわごとを書きおつてと説教されるのではないかと心配である。何度も書いたが、いかんともしがたい。……ぐずるのはこれくらいにしておこう。

現在、実際の成果がたいしたことなく、また理解もできていないのだが、いろいろな道具や材料に触れるのは痛快だ。歯のかたちも、おもしろい。

細かい作業に集中することと関係があるのだろうか、いろいろなものが、意義があり、興味深く注目に値するようにおもわれる。病院の向かいの、「いこい公園」の花壇、自動車や電柱・看板や手すりの錆び具合、道ばたで野菜を売っている人、なかんづく 中、人々の顔。通学のときみる人々、スーパーで、本屋で、神社で。どの人も、それぞれ、すばらしく見える。ひとりひとり、肖像画を、描きたいくらいだ。十五分、じっとしていてくれれば、描けるんだが。デッサン。五分でもいい。

将来、いっちょまえになったとき、現段階、見習い小僧のもどかしさを、思い出せば、話すだろう。

入学にあたって

技工士学校1年 松嶋ちひろ



今から4カ月前、私は技工士学校へ入学しました。当初の私は、実習においても講義においてもすべてが興味深く、数ある不安のなかにも面白さを感じていました。物を作る事が好き、何時間やっても飽きない作業。ただ毎日が楽しく過ぎていきました。

しかし、時が経つにつれ、楽しいだけではやっていけない事を知りました。ひとつの技工物を作るにしても、そこには審美性や機能性や適合性、さらにはスピードも要求されます。それは、患者の生活に大きな影響を与える医療行為であるため、責任を持たなくてはなりません。ですから、今行っている、基礎実習においても、今後技工物を作っていく上での重要な基礎を学んでいる為、ひとつひとつの意義をきちんと獲え作業に取り組んでいく必要があるのです。

しかし、今の私はといえば、作業における様々な要求に応えきれず苦悩する毎日です。それでも、すべてが自分のためであり、将来患者の満足のいく技工物を作っていくには、今は頑張るしかありません。2年生になれば今とは比べものにならない程ハードな実習、社会に出れば、それ以上の困難が待っているでしょう。それを思うと、不安ばかりが募りますが、励まし、支えてくれる様々な人々がいるから、頑張ろうと思えます。これからも、自分の夢をかなえるため、立派な歯科技工士になるため、数ある各々の障害を確実にクリアーし、努力していきたいです。